

北信越高校総体を見て

6月20日から22日にかけて、松本市総合体育館で北信越総合体育大会卓球競技が開催された。今年度は長野県が開催県となり、総体は松本市で、新人戦の選抜大会は長野市が会場となって行われる。特に総体では、地元開催枠が加わり、学校対抗で県大会の上位4校が出場できるため、ぜひともこれに加わりたかったわけだが、手が届かずに終わってしまった。(選抜大会は地元開催枠はなし)

したがって今回は補助員として参加することになったわけだが、間近にハイレベルの大会を見てきたことは、いくつもの収穫があったはずである。

この中で特に印象に残った試合を挙げてみたい。

まずは男子の学校対抗2回戦の、高岡龍谷対福井商業の試合である。どちらも県1位でこの大会に臨んでおり、ここでの結果が次のインターハイの組み合わせに大きく影響することから、どちらにとっても負けられない一戦である。試合は福井商業が2点を先取りし、3番のダブルスも高岡龍谷が第一セットを落とし、大勢は決したかに思えた。しかし勝負を捨てない高岡龍谷がこのあとから驚異的な粘りを見せ、第4セットまでもつれこみ、最後のセットをジュースでとって次につなげたのである。4・5番は、高岡龍谷が一方的な展開を見せ、福井商業は十中八九手に入れかけた勝利を逃したのである。

女子の試合では決勝戦の遊学館対福井商業の試合が挙げられる。どちらも圧倒的な力で決勝に上がってきたが、北信越3連覇を目指す遊学館の優位は動かないかに見えた。試合は伯仲し、取られたら取り返すというフルセットゲームが続く展開となった。1番を福井商業が取って先行し、続く2番は遊学館が取り返す。3番ダブルスを福井商業が取ったのが大きく、最後まで勝利の行方がわからなかったが、結局遊学館の猛追をかわらうじてかわして、福井商業が優勝を果たした。

長野県勢はというと、男子の松商と女子の長野商業が一勝したのにとどまり、先の選抜大会と同様あまり振るわない結果となった(選抜では男女とも予選リーグ敗退)。

シングルスでも同様で、県の1位が男女ともあっけなく敗れてしまい、そのほかインターハイ出場権を持った選手も、初戦敗退が目立ち、先の試合が思いやられる状態である。他県勢では、どんなに劣勢になっても勝負を捨てない気構えが備わっているのに、ある長野県チームは、大差がつき出すと、途中であきらめだして気力が途切れてしまっている始末であった。せっかくの地元開催で県の代表として出場しているだけに何ともやりきれない思いであった。

本校は地元の学校として裏方仕事で運営に協力したが、積極的に審判に携わり、たいへん好評であったと聞く。